

共に創ろう持続可能な社会 ～SDGsは世界につながるパスポート～

共に創ろう 持続可能な社会 ～SDGsは世界につながるパスポート～

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



2019年2月16日（土）

（受付開始 12時30分）
午後1時～4時

立正大学

4号館 1階 411教室

※立正大学 正門よりご入場ください
〒141-0032 東京都品川区大崎4-2-16
JR大崎駅、JR&都営浅草線五反田駅から徒歩5分
東急池上線大崎広小路駅から徒歩2分

定員：70名（申込先着順・参加費無料）

国連が採択した「持続可能な開発目標」（SDGs）に産業界・教育界から関心が高まっています。地域企業が住民と連携しながらSDGsにどう取り組みしていけばよいのか、一緒に考えましょう！

内容：

1. SDGsとは
2. SDGs取組事例（企業プレゼンテーション）
3. ワークショップ
4. SDGsのこれから（SDGsアクティブローカルポイントシステム「L-TanQ」の紹介）

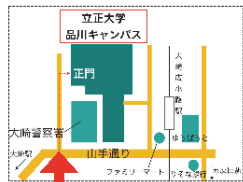
事前申し込み方法

QRコードから申し込みフォームへジャンプ→「お名前」「ご所属」をご記入後、送信してください。



または、メールに「お名前」「ご所属」をご記入後、下記メールアドレス宛に送信してください。
sdgspoint-labo@roundtable.jp

主催：（有）ラウンドテーブルコム SDGsポイント研究所@ジャパン
共催：RisVo（立正大学ボランティアサークル）、国際的学習プログラム研究委員会、未来協育推進機構、BigWave、ゴタダスタイル、しながわお笑いフェス、横才塾（同）
協賛：朝日新聞社
後援：品川区



ここ曲がる



立正大学
RisVo



朝日新聞
品川区

第1回 2019年2月16日（土）
学生サークルRisVoと（有）ラウンド
テーブルコムSDGsポイント研究所
ジャパンが市民向け講座として開催。
全国から多数のご参加がありました



品川区2019年度 五反田バレー魅力発信事業

共に創ろう 持続可能な社会 第2弾 ～STI for SDGs@Gotanda-Valley～

(※STI for SDGs=持続可能な開発目標のための科学技術イノベーション)



国連の設定したSDGs（持続可能な開発目標）を達成するために、ものづくりの果たす役割は大きいです。五反田バレーの企業の技術とビジョンをどう生かすか、一緒に考えましょう！

日時：2020年2月16日（日）

午後1時～4時（受付開始 12時30分）

会場：立正大学 9号館 B2階 9B23教室

※立正大学 正門よりご入場ください

定員：120名（申込先着順・参加費無料）

内容：（司会：フリーキャスター 桑原りさ）

1. 企業のSDGs取組事例

アイコンポロジ（株）、東洋製罐グループホールディングス（株）、
（株）近畿日本ツーリスト首都圏、他

2. パネルディスカッション「品川区xものづくりxSDGs」

アイコンポロジ（株）、東洋製罐グループホールディングス（株）、
（株）近畿日本ツーリスト首都圏、（株）野村総合研究所、立正大学、他

3. 提言「五反田バレーで企業と教育をつなぎ、SDGsアクションを！」

（有）ラウンドテーブルコム 柳沢寛夫

主催：（有）ラウンドテーブルコム

共催：立正大学

協力：国際的学習プログラム研究委員会、SDGsポイント研究所のジャパン、横才房（同）、アイコンポロジ（株）、東洋製罐グループホールディングス（株）、（株）近畿日本ツーリスト首都圏、（株）野村総合研究所、（一社）グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン

後援：品川区



<オンライン・イベント>

共に創ろう 持続可能な社会 第3弾 ～ストーリーの共有とコミュニティづくり～



国連の設定したSDGs（持続可能な開発目標）を達成するために、コミュニティの役割は大きい
です。SDGsストーリーの共有で「まち・ひと・しごと」活性化アクションを起こしましょう！

日時：2021年2月27日（土）

午後1時～4時（開始10分前より入室可）

参加方法：Zoom

※お申込みいただいた方にメールでURLを通知します。

定員：80名（申込先着順・参加費無料）

内容：

1. 基調スピーチ

- ・「新型コロナウイルスとSDGs」（立正大学 心理学部 小澤 康司 教授）
- ・「戸越公園を中心に地域・企業と連携するSDGs教育の取り組み」（立正大学 地球環境科学部 後藤 真太郎 教授）

2. 企業・地域のSDGsプロジェクト紹介 ～ストーリーの共有～

- ・シナネンホールディングス（株） ・子どもゆめ食堂「だんらん」 ・とこ系の会（一社） ・モノづくりXプログラミングfor Shinagawa
- ・東洋製罐グループホールディングス（株） ・大日本印刷（株） ・（株）近畿日本ツーリスト首都圏

3. 参加型ディスカッション ～コミュニティづくり～

- ・登壇者&参加者の皆様で、オンライン上のホワイトボードと付箋を使って共に考える

4. 提言「SDGsアクティブローカルポイント活用で、SDGsアクションの見える化を！」

（有）ラウンドテーブルコム 柳沢寛夫

▶事前申し込み方法

QRコードから申し込みフォームへジャンプ

→「お名前」「ご所属」をご記入後、送信してください。



<https://www.roundtable.co.jp/company/?p=2213>

または、メールに「お名前」「ご所属」をご記入後、

下記メールアドレス宛に送信してください。

sdgspoint-labo@roundtable.jp

主催：立正大学、（有）ラウンドテーブルコム

協力：（一社）グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン、シナネンホールディングス（株）、子どもゆめ食堂「だんらん」、とこ系の会、（一社）モノづくりXプログラミングfor Shinagawa、東洋製罐グループホールディングス（株）、大日本印刷（株）、（株）近畿日本ツーリスト首都圏、国際的学習プログラム研究委員会、SDGsポイント研究所のジャパン、横才房（同）、WHITEBOX

後援：品川区



- 2000年～2015年ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals:MDGs)
国連ミレニアム・サミットで、「国連ミレニアム宣言」を採択
8つの目標を2015年までに達成することを宣言した。

- ◆2002年「持続可能な開発の為の教育(ESD)」第57回 国連総会本会議
2005年から2014年まで10年間をESDの10年とすることを採択

- ◆2012年 人間の安全保障(Human Security): 2012年国連総会決議
「あらゆる人間の命、生活、尊厳を守るために、人間を中心として統合的に様々な脅威と取り組む」
個々の人間の安全を保障すべきであるという安全保障の考え方。
伝統的な「国家の安全保障」の概念と相互依存・相互補完の関係にある。

- ◆2016年1月1日 持続可能な開発目標(SDGs) が正式発効



2030年達成目標

17の目標と169のターゲット

- ◆2020年1月31日WHO(世界保健機関)「緊急事態宣言」発令

➡新型コロナウイルス感染症の影響により、その取り組みが大きく後退

- 健康に対する人間の安全保障

<持続可能な開発目標 (SDGs) 報告2020 概要>

JAPAN

OECD Countries



「持続可能な開発報告書2020」 日本は17位に後退

ドイツのベルテルスマン財団 (Bertelsmann Stiftung) と持続可能な開発ソリューション・ネットワーク (SDSN: Sustainable Development Solutions Network) の報告書「[持続可能な開発報告書2020](#)」(Sustainable Development Report 2020) が6月30日に刊行されました。日本は、2019年の15位からランクを2つ落とした17位へ。

17のゴールのうち赤くなっている
5つが取り組みが不十分と評価

- ゴール 5: ジェンダー平等
- ゴール 13: 気候変動
- ゴール 14: 海の生物多様性
- ゴール 15: 陸の生物多様性
- ゴール 17: パートナリーシップ

Notes: The full title of Goal 2 "Zero Hunger" is "End hunger, achieve food security and improved nutrition and promote sustainable agriculture".
The full title of each SDG is available here: <https://sustainabledevelopment.un.org/topics/sustainabledevelopmentgoals>

気候ストライキ

2019年 スウェーデン

グレタ・トゥーンベリさんが開始

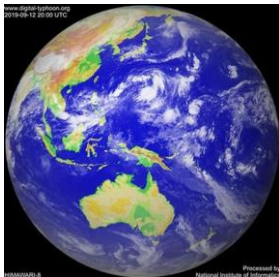
気候変動問題・30年間何も行動して来なかった大人達への怒りと涙の訴え

国連気候行動サミットで講演

世界150ヶ国400万人の若者達が気候ストライキへ参加



⇒世界中の若者が関心をもつ地球の温暖化問題について、日本人は何故関心をもたないのだろうか？ 他の国の人達が関心を持つのは何故だろうか？



SDGの取り組みに必要なこと

- ①地球&自然と人間社会&活動の全体のつながりを理解する (Global) 視点を持つこと
- ②地球資源 (コモン・リソース) は有限であり、次世代に持続可能であるか検討する (Science) 視点を持つこと
- ③不確実な世界であることを理解し、20年後、50年後の未来社会を創造する (Future) 視点を持つこと
- ④ ①②③の視点から、今、ここで、できることを考え、連帯し活動する主体性があること

➡日本では、このような情報が一部にしか知らされていない。
また、このような教育は一部でしか行われていない。

ドイツ連邦共和国でのESDの実践

出典：21世紀型スキルと諸外国の教育的実践 2015 田中義隆著 明石書店

特徴：連邦政府と16州の州政府：教育の権限は州政府

<ESDの国家プロジェクトを実践>

● 「BLKプログラム21」 1999～2004年

連邦・諸州教育計画研究助成委員会 (BLK) が中心に展開

◆重視した視点：「持続可能性 = 環境論争の破壊的シナリオを乗り越えるための近代化のシナリオ」

➡ 持続可能な行動を教えるのではなく、生徒が自ら判断し、持続可能性という意味において革新的に行動できるようにする。

◆56のワークショップの教材開発

◆教員研修と ESDコーディネーター（指導者）養成

◆ESDコンセプトによるカリキュラムの改善

1999～2004年

「BLKプログラム21」＝「未来をつくる力」

- ①将来のシナリオと構想における先を見通した思考と知識
- ②問題解決と工夫において教科間の枠を超えて取り組む力
- ③ネットワーク力と計画力
- ④文化の違いを超えた意思の疎通と協力
- ⑤相手の立場に立って考える力、相手を思いやる力
- ⑥意思疎通能力と協調性
- ⑦自己や他者を動機づけられる力
- ⑧個人の思想や文化的な理想に対して謙虚に熟慮する力

「トランスファー21 (Transfer21)」2004～2008年

目的：各州の一般学校教育にESDを制度的に導入する

半日制学校➡全日制への移行期：午後の時間にESD授業実践

教育目標：「創造的コンピテンシー」

I. 専門的・手法的能力

- ①世界へ目を向け、新しい視点を組み入れて知識を構築する力
- ②先を見通して考え、行動する力
- ③横断的な知識を得て、行動する力

II. 社会的能力

- ④他者と共に計画し、行動できる力
- ⑤決定プロセスに関わることができる力
- ⑥積極的になれるよう他者の意欲を高められる力

Ⅲ. 自己の能力

- ⑦自己と他者の理想像を照らして合わせることができる力
 - ⑧自分で計画し、行動できる力
 - ⑨不利な人や貧しい人、弱者、抑圧された人に対して、
思いやる気持ちや連帯感を示すことができる力
 - ⑩積極的になれるよう自己の意欲を高められる力
-

■ ESDコーディネーター養成

「マルチプリケーター研修プログラム」 15か月間 10回の宿泊を伴う
大型研修を実施し、コーディネーター（マルチプリケーター）養成を実施

■ ESD実践 授業例 （公立の中等学校：第5～12学年）

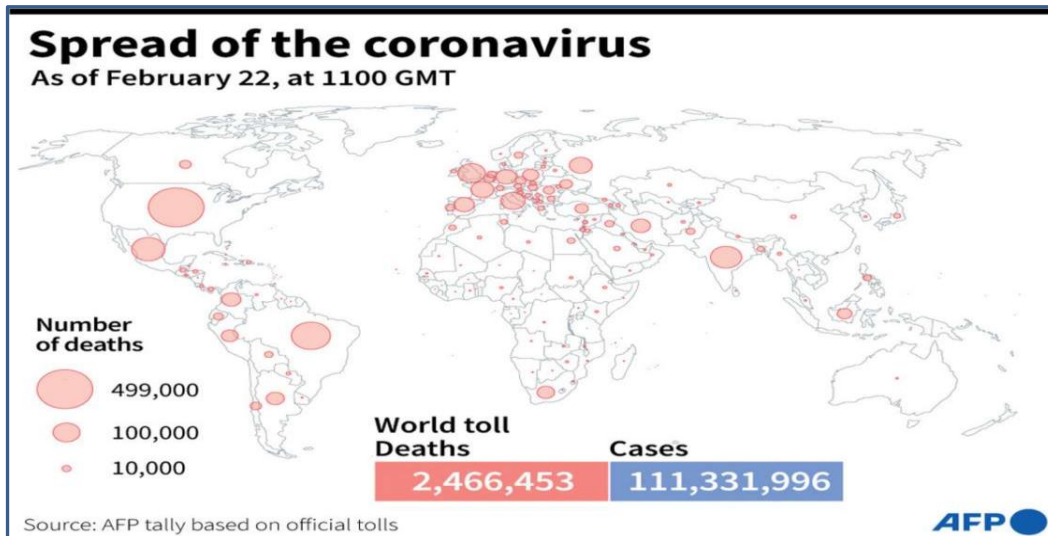
学年：第12学年 教科：地理 生徒数：17名 教師：ESDコーディネーター
単元：地球はどこまで耐えられるか？

内容：一人が一日に消費するもの（データ）を話し合う。

「エネルギー」「食物」「交通機関」「消費」の4つのテーマについて、
協働学習 と意見発表

新型コロナウイルス感染症の拡大状況

新型コロナ	感染者数	死者数	死亡率
全世界	111,331,996人	2,466,453人	2.22%
日本	426,375人	7,549人	1.77%
アメリカ	28,134,275人	498,901人	1.77%
インド	11,005,850人	156,385人	1.42%
イギリス	4,115,509人	120,580人	2.93%
フランス	3,605,181人	84,306人	2.34%
スペイン	3,133,122人	67,101人	2.14%



米ジョンズ・ホプキンス大学の集計(2021年2月22日)

人間の安全保障 (Human Security)

個々の人間の安全を保障すべきであるという安全保障の考え方。
伝統的な「国家の安全保障」の概念と相互依存・相互補完の関係にある。



<持続可能な開発目標 (SDGs) 報告2020 概要>

出典：[2030アジェンダ | 国連広報センター \(unic.or.jp\)](https://unic.or.jp/)

2016年以降、世界が取り組んできたSDGsは、2020年に発生した新型コロナウイルス感染症の影響により、その取り組みが大きく後退しています。



立正大学 心理学部
小澤康司